



取り外したバンパー。素材はP P (ポリプロピレン) です

## 毎小こども 記者の自

荒木熊務記者(小3)  
「初めて見たものばかりで、すごかった」

安里真奈美記者(小4)  
「古い車から使える部品ができることを初めて知りました。私は古い車は宝だ、と思いました」

安里満輝記者(小4)  
「メモに書き切れないことがいっぱいでした。1台の車から60種類以上の部品がとれるなんですすごい」

荒木祐助記者(小6)  
「パンクして動かなくなった車でも、こんなふうに役に立つんだと分かりました。僕は古い車は『資源の山』なんだと思いました」



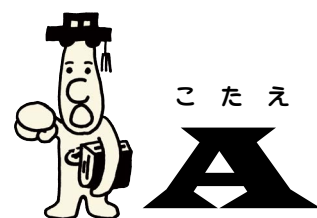
昭和メタル岩槻工場内の倉庫

最後に工場の倉庫をのぞきました。「うわー」車のドアやシート、部品などがずらりと並んでいます。一つ一つにタグが付き、注文があったらすぐに配達できるようになっており、ほとんど新品のように見えます。ここにはリサイクル部品がなんと約5000点あります。会社全体では万単位を用意しています。

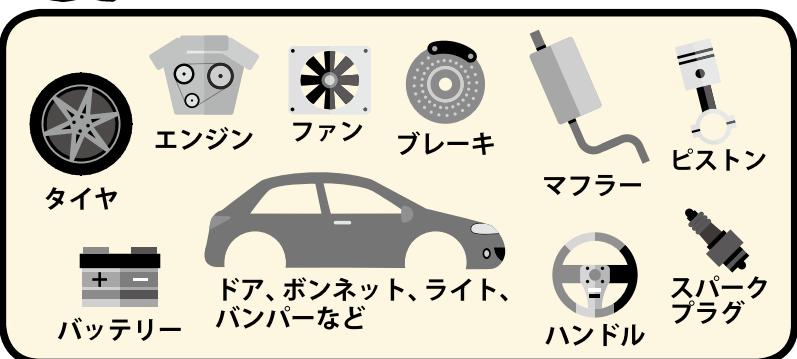
新品みたい！



倉庫には…



答えは○。車の種類によりますが、昭和メタルでは80種類以上のリサイクル部品を取り出しています。



次回は  
解体の現場を  
訪ねます。

協力・一般社団法人 日本自動車リサイクル部品協議会

JARC 公益財団法人  
自動車リサイクル促進センター  
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC

「自動車リサイクル」を学べる動画が見られるよ！

<http://www.jarc.or.jp/>



毎小こども記者

# 自動車リサイクルの 秘密を探る! ①部品編



きょうの  
現場

## 部品を取り出す作業を取材

昭和メタル岩槻工場



「昭和メタル」は車の解体からリサイクル部品販売まで、幅広く事業を展開する会社です。岩槻工場の前で、(左から)安里真奈美記者、満輝記者、荒木祐助記者、熊務記者。後列は山崎紀久男・営業所長

シリーズ1回目は、4人の毎小記者——小学6年生の荒木祐助記者と弟で3年生の熊務記者、4年生で双子の安里満輝記者と真奈美記者——と一緒に、さいたま市にある「昭和メタル 岩槻工場」をたずねました。

高い技術が再利用を可能に



昭和メタル岩槻営業所内に張られたリサイクル部品の輸出入

環境への悪い影響を小さくする仕組み  
リサイクル部品には、リユース部品(中古部品)とリビルド部品(再生部品)があります。古い車から取り出して、点検をして利用するのがリユース部品、取り出した部品の一部を交換したり、磨いたりして再び組み立てるのがリビルド部品です。いずれも新品に比べて1割から10分の1程度の価格です。何よりゴミを減らし、資源を無駄にしない点で環境への悪い影響を小さくします。

「車を輸出したら、故障に備えて部品も輸出しないといけません。でもお手持ちでない国は部品も安くないと買えないし、長い間車を使い続けるので、生産が終了してしまう部品もあります。そんな時、使用済みの自動車から取り出した部品はすべて役に立ちます」(山崎所長)

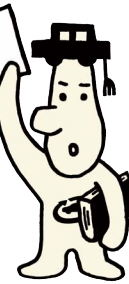
品質を  
チェック!



取り出した部品のデータを登録する作業の様子。左の壁に毎小こども記者が

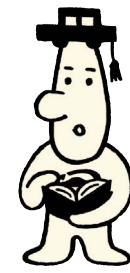
細かく記録

取り外したバンパーなどは、へこみや傷のあるなしや、その大きさをチェックして、細かく記録します。例えばAなら見てはほとんど「分らない」、Bは「ちょっと見て分かる程度」……という具合です。満輝記者は「成績表みたいだとつぶやいていました。人の手一つ一つ洗い、写真を撮って」コンピュータに登録します。



いよいよ本格的な作業です。作業指示書に従って、部品が使えるかどうかテストした後、一つ一つ外していきます。「ずいぶんいいいなんだなあ」と記者たち。案内役の平野満輝所長は「ここでは、日本国内で再利用される部品を取り出しています。使うために外すのだから傷をつけないように十分気を付けています」と説明します。

もう一度使うからいいないに



クイズ

エンジンや、エアコンのコンプレッサー、ドアなどなど1台の車から取れるリサイクル部品は60種類以上ある——○か×か?

# 古い車は宝の山